



社会保障分野における安全で利便性の高い 情報連携が地域住民にもたらす効果に関する 検証成果について

～ 社会保障カード(仮称)の制度設計に向けた実証事業 ～



平成22年8月31日

わかやま安心医療・社会保障カードコンソーシアム



1. 実証事業の概要



すべての国民にとって**利便性の高いサービスの基盤**となる**社会保障カード(仮称)**の実現のため、その魅力的な**アイデアの検証**、並びに**課題の抽出**と、**あるべき姿の提言**を本実証の目的としました。

1. 情報通信端末の多様化

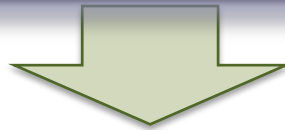
◆地上波デジタルテレビ・携帯電話の活用

2. 社会基盤としての保健医療ネットワークの構築

◆地域の共通診察券サービスや医療情報共有ネットワークの構築

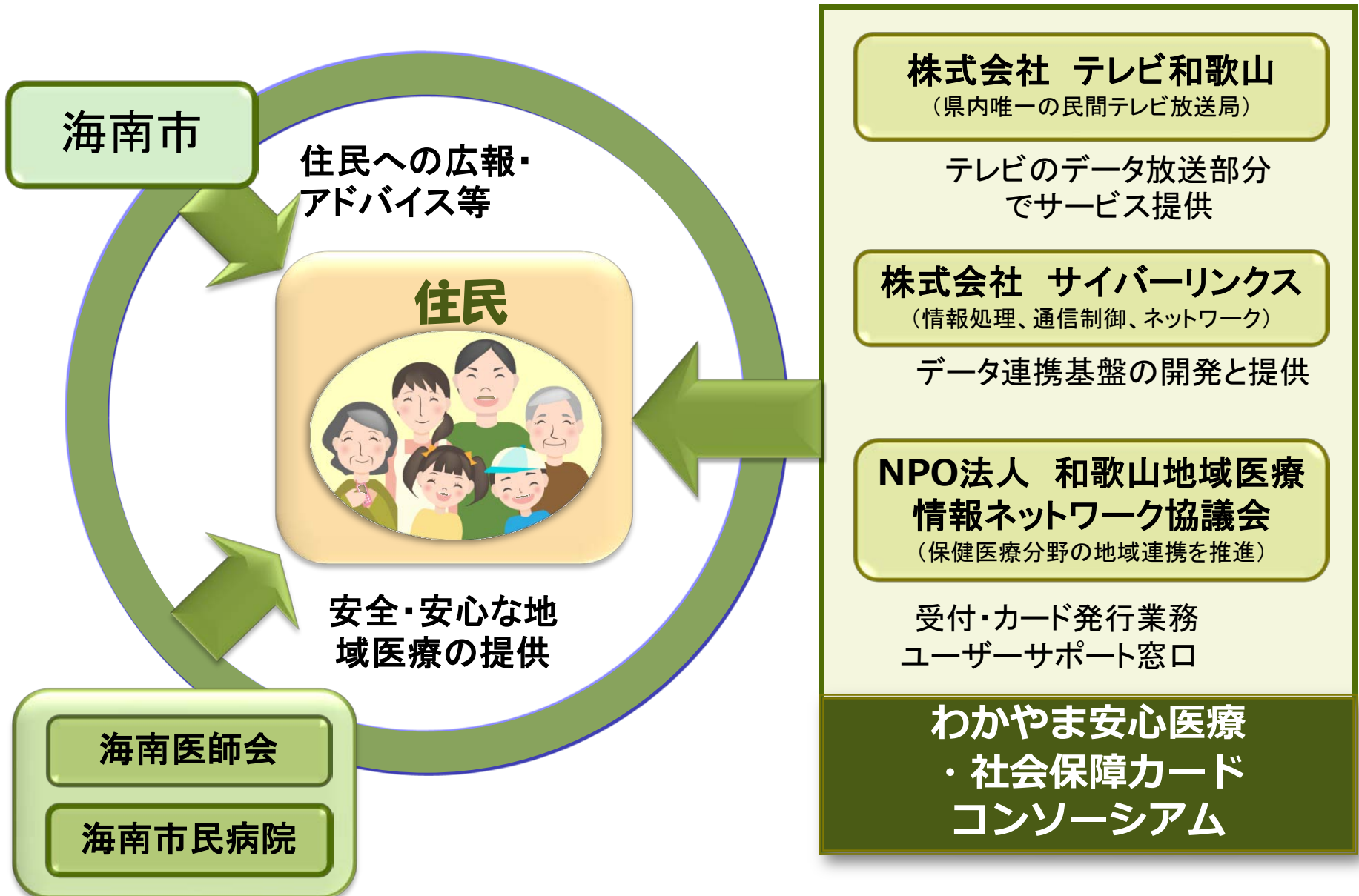
3. 運営組織の在り方

◆住民の声から、運営組織に求められるニーズと、在るべき姿を提言

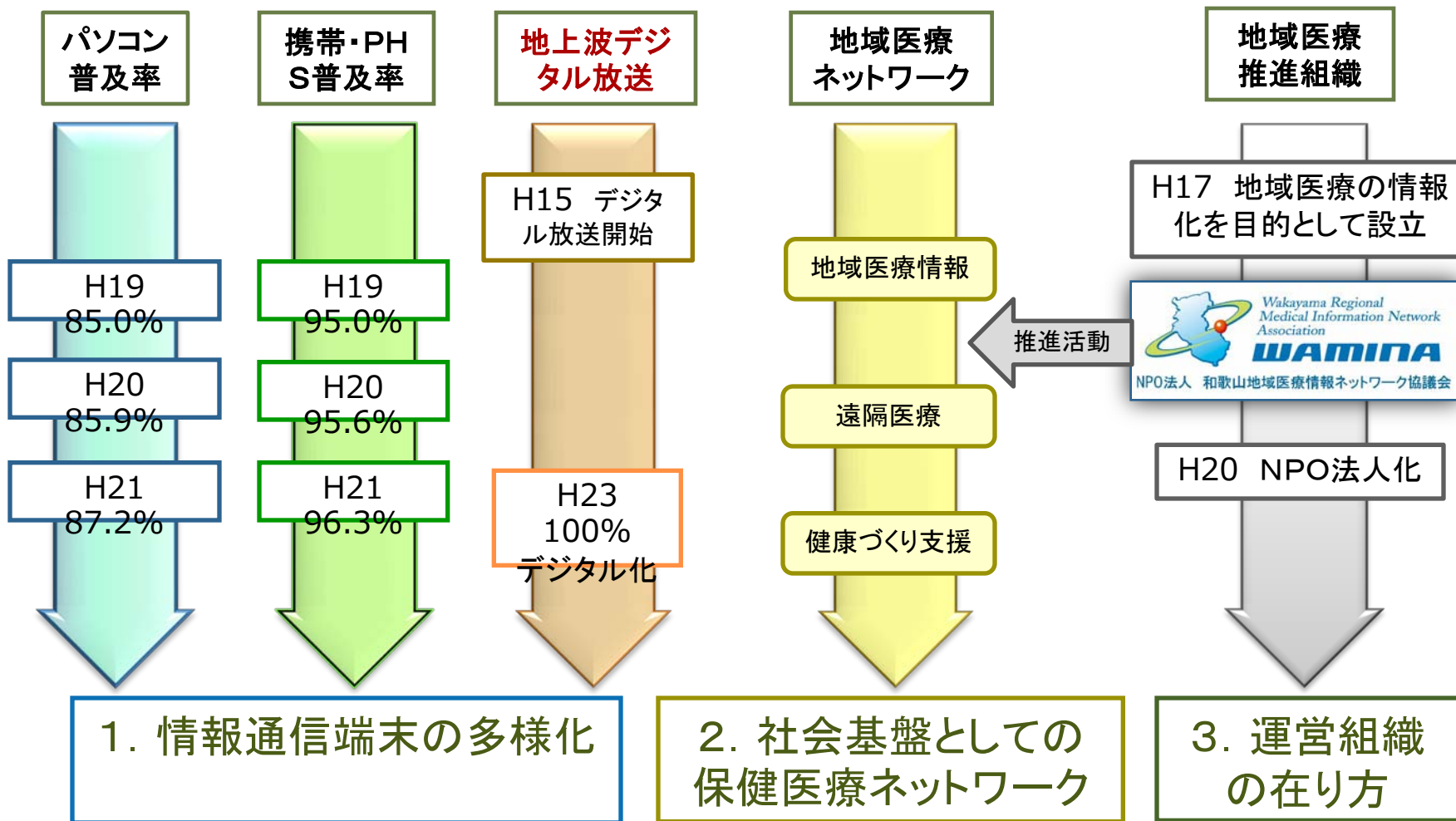


上記の検証と課題抽出と提言

1.2 実証ステークホルダー



1.3 本実証を実施するにあたっての背景



社会保障カード(仮称)の制度設計に向けた実証事業

1.4 提供サービス内容



住民向けサービス

1) 医療保険者等のデータ参照

- ・健康保険資格確認
- ・介護保険資格確認
- ・年金情報参照

2) 診療結果の参照

- ・検査歴参照
- ・処方歴参照
- ・診療履歴参照

3) 自己の健康管理

- ・日々の健康情報登録・閲覧

4) 地域の共通診察券

- ・複数の医療機関の診察券が1枚になる。

医療機関向けサービス

1) 医療保険資格確認

- ・リアルタイムの医療保険資格確認

2) 地域医療連携ネットワーク

- ・処方歴・検査歴の共有等



パソコン・携帯・地デジテレビ
を利用した情報の閲覧登録

カードデザイン
は3種類から
選択可能



1.5 システム構成

